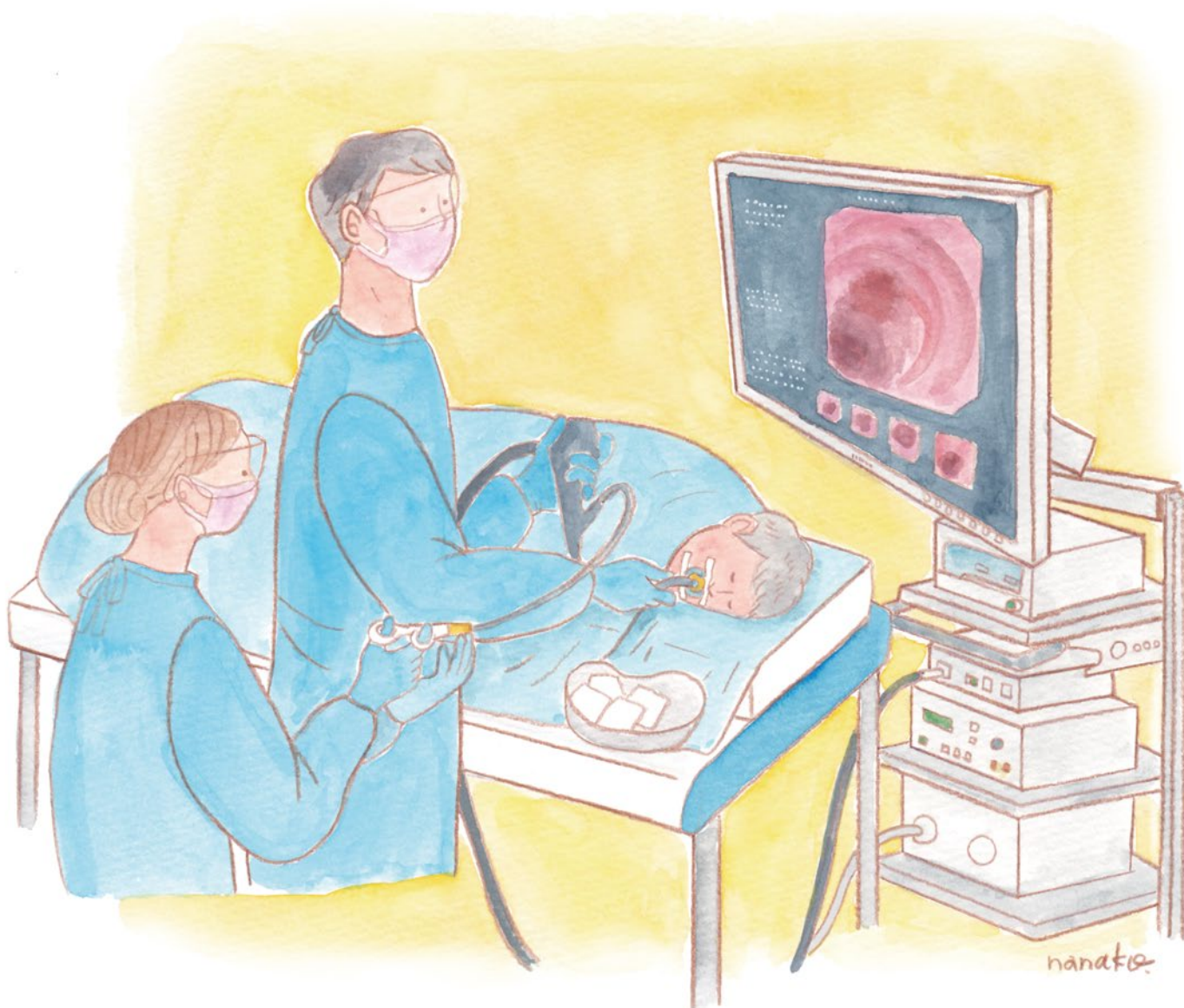




診療科
見学note

消化器内科

特集

足病診療科

● 医学カンタン講座

あなたのカラダがわかる尿と血液

● MATSUSHITA REPORT

がん相談支援室(がん相談支援センター)
“一人ひとりの思いを大切に”

● news

マスク自動販売機の設置場所



「消化器」内科とは・・・

食道から胃、十二指腸、小腸、大腸といった、食事が消化されて便になるまでの通り道に加えて、消化液をつくったり、吸収した栄養をたくわえたりする役割を持つ肝臓、胆のう、膵臓を合わせた多くの臓器を担当しています。

「消化器」の主な病気は・・・

軽い胃炎や腸炎から、長いお付き合いが必要になるウイルス性肝炎、消化器臓器のがん、またヘリコバクターピロリ感染症の治療、最近増加している炎症性腸疾患など、幅広い病気を担当します。

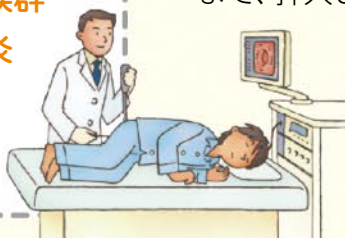
消化器内科でよく見る症状

「下痢」

「下痢」の患者さまが来られたときに考える代表的な病気

- ①感染性腸炎 ③過敏性腸症候群
- ②悪性腫瘍(がん) ④潰瘍性大腸炎

これらの病気を見分けるために、**大腸内視鏡検査**(大腸カメラ)が非常に重要です。



大腸内視鏡検査

検査前に腸管洗浄液を飲み、大腸の中をきれいに洗い流したうえで、小指の太さほどの内視鏡を肛門から約1メートル奥の盲腸まで、挿入します。

検査時間は個人差が大きく、15分～60分ほどです。

今回は、最近とくに患者さまが増えており、当院でも力を入れて取り組んでいる炎症性腸疾患(Inflammatory bowel disease: IBD)のひとつである、**潰瘍性大腸炎**という病気を取り上げます。

「潰瘍性大腸炎」とは・・・

潰瘍性大腸炎では、大腸の粘膜に炎症が起き、粘膜がはがれたり(潰瘍)、ただれたり(びらん)しています。このため、お腹が痛くなったり、頻繁に下痢をしたり、ときには粘膜から出血して血便が見られます。

通常、外敵から身体を防御するために働く免疫系が、なんらかの異常により自分自身の腸管粘膜を攻撃するために潰瘍性大腸炎が起きると考えられていますが、はっきりとした原因はわかっていません。

男女の数に差はなく、20～30歳代での発症が多いですが、中には小児や高齢で発症することがあります。日本には約20万人の患者さまがいると言われており、年々増え続けています。



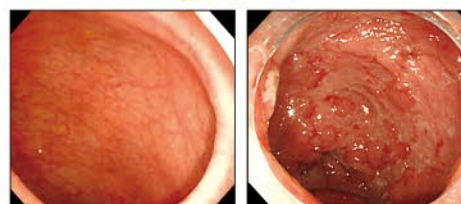
「潰瘍性大腸炎」の診断、検査

潰瘍性大腸炎は、細菌やウイルスによる感染性腸炎と見分けが付きにくいことがしばしばあります。潰瘍性大腸炎と感染性腸炎とでは治療がまったく異なるため、最初の診断には細心の注意が必要です。また、治療を開始した後に、症状をきちんと把握するために、血液検査、便検査、画像検査を定期的に行います。

血液検査 おもに血球の数（白血球数）と炎症の指標（CRP）を確認します。検査値の変化は、病気の経過をみるのにとても重要です。

便検査 便の中に感染症を起こすような細菌がないかどうか、また腸炎の程度を反映する血液成分（便潜血）、炎症反応の物質（便中カルプロテクチン）を調べることがあります。

画像検査 大腸の状態をより詳しく見るために、主に大腸内視鏡検査が行われます。炎症の範囲や粘膜の潰瘍やびらんの状態を観察し、その後の治療法を決める重要な検査です。



健康な人の大腸

潰瘍性大腸炎の大腸

「潰瘍性大腸炎」の治療

5-アミノサリチル酸（5-ASA）製剤を基本とし、より強い炎症がある場合には、ステロイド製剤、その他免疫調節薬、生物学的製剤、血球成分除去療法など様々な薬剤を用います。

当院の消化器内科では、これらの治療を組み合わせ、患者さまそれぞれに合った治療に取り組んでいます。

「潰瘍性大腸炎」への当院独自の取り組み

松下記念病院では、さまざまな職種で「IBD^{*}チーム」を作り、患者さまのサポートができるよう、情報共有や勉強を行っています。

病気の検査や治療を担当する医師だけでなく、食事のことは管理栄養士、薬のことは薬剤師、金銭的負担のことは医事課、メンタルケアは臨床心理士、といったように、ひとりの患者さまをチームでサポートし、安心して治療を受けられるように心がけています。

※IBDとは、主として消化管に原因不明の炎症を起こす慢性疾患の総称。



【始まります！足病診療科！】

「足病診療科」ってご存知ですか？

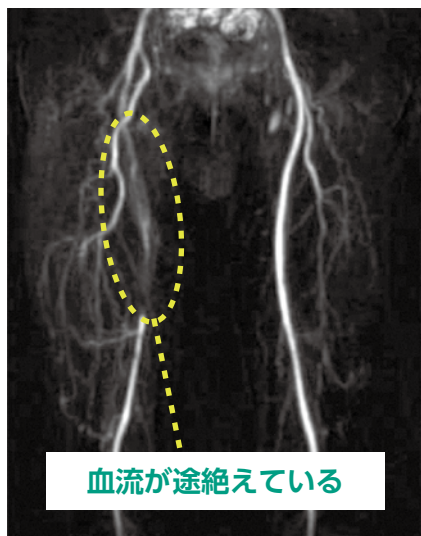
欧米では一般的で、近年、日本でも注目されつつありますが、診療科として院内に開設しているところは非常に少ないのが現状です。

では「足病診療科」は何をすること？

一言で言えば「足のトラブル」を総合的に対応するための診療科です。多種多様な「足」のトラブルに対応するため、当院では、腎不全科、循環器内科、糖尿病・内分泌科、整形外科、皮膚科と看護師、臨床検査技師、理学療法士といった多職種共働のチーム体制をとっています。

いつまでも自分の足で歩き続けるために、足に真摯に向き合います。

【こんなに怖い足の病気】



末梢動脈狭窄

足の病気はたくさんありますが、特に当院では末梢動脈疾患に力を注いでいます。

末梢動脈疾患とは表1に示すような4つの進行度に分けられます。足（下肢）の血流障害によって、足の痛みや壊疽・潰瘍などから切断にいたる場合がある怖い病気です。しかし、それ以上に怖いのは、足の末梢動脈疾患

表1	Fontaine 分類
I 度	無症状または冷感
II 度	間歇性跛行※
III 度	安静時痛
IV 度	壊死・潰瘍

を患っている方は全身のさまざまな血管が動脈硬化を起こし心筋梗塞や脳梗塞になりやすい状態（発症していても気が付かないことも多い）になっていることです。

かんけつせいはこう
※間歇性跛行とは、しばらく歩くと足に痛みやしびれを生じ、少し休むとまた歩けるようになる症状のこと

【こんな症状抱えていませんか？】

むくみや冷え、しびれといったどこに相談していいかわかりにくいもの。

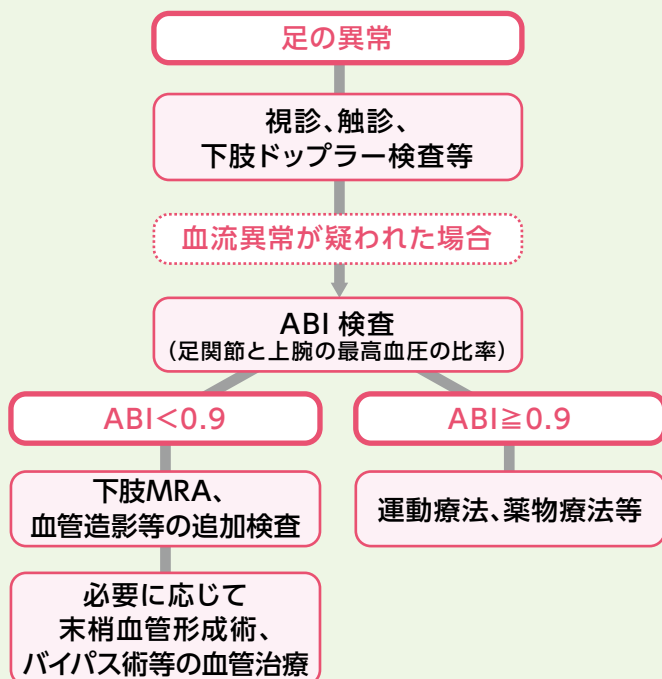
関節の痛み、傷や壊疽、爪や皮膚のトラブルといったもの。

わかりにくい血流障害や靴のフィッティングなど、足に関わることならなんでも受診していただいて結構です。



末梢動脈疾患が疑われた場合の 診断～治療の流れ

各種の検査や所見から、必要な治療を選択し、重症化予防、再発予防に取り組みます



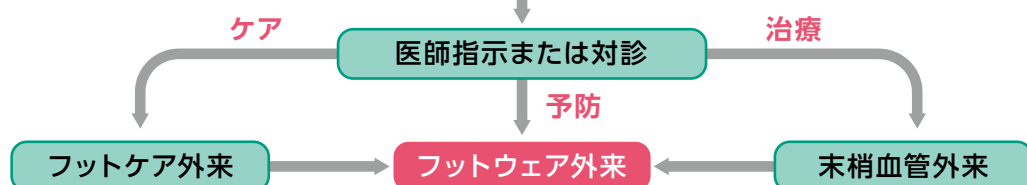
【知っておいてほしい足の機能】

人間の身体は全身に約208個の骨があります。そのうち足は全体の約1/4を占め、複雑で繊細な機能を可能にしています。

足は歩くときには体重による地面からの衝撃を吸収するとともに、前方に進むための力を地面に伝える唯一の接地点となっていて非常に重要な役割を担っています。しかし、日常生活の変化や高齢化に伴い、足の変形や感覚障害などによって足の障害をお持ちの方が少なくありません。足の障害は歩行障害を招き、活動範囲が狭まり、生活が不自由になってしまいます。

【他にもあるよ！足の処置】

糖尿病足病変予防目的、足の変形による足トラブル予防の免荷目的、抗がん剤による手足症候群予防 など



フットケア外来

巻き爪やタコ、角質化などで困っていることはありませんか？

特に糖尿病を患っている場合、足先の感覚が鈍ったり、小さな傷から感染症を引き起こし重症化する場合があります。高齢者は特に足先のケアが行き届きにくいので、困っていることがあれば、ぜひ受診してみてください。



フットウェア外来

足の傷やタコ、角質化、疲れやすいなどといった症状は足の骨や筋肉の異常で起きている事も少なくありません。普段よく履かれる靴の調整を行うことで症状が緩和されたり、新しい傷の予防につながることがあります。当院では靴の中敷きをオーダーメイドで作成しています。



フットウェアとは靴や靴下など足に履くものの総称です

松下記念病院 足病診療科 毎週 月・木曜日 13:00～15:00

より自分らしい生活を維持するためにも、足の病気の早期発見と治療をめざしてみしょう！

医師担当表	月	木
フットケア	岡田(博)・細見	細見・宗川
フットウェア	第2・4 細見	
足病	第1・3・5 安田 第2・4 張本	13:00 川俣 14:00 安田
末梢血管	神谷	

あなたのカラダがわかる 尿と血液

尿検査で わかること



『尿検査』ってなあに？

病院や健診で行う「尿検査」は、言いかえると「おしっこの成分チェック」。どんな成分がどれだけ含まれているかを丹念に調べるものです。

どんな病気がわかるの？

尿検査でわかる病気はたくさんあります。腎臓・膀胱・尿管・尿道の病気や心臓病・肝臓病・脾臓病・糖尿病、さらにがんや妊娠などがわかります。

血液検査で わかること

血液検査で何がわかるの？

貧血、肝臓の異常、腎臓の異常、高脂血症、糖尿病などの病気が、わかります。

どんな種類があるの？

肝臓系検査

総タンパク(TP) 血液中の総たんぱくの量を表します。

アルブミン(Alb) アルブミンは血液中に最も多いたんぱくです。(血管から水分が漏れ出さないように維持する役割と、血液中の様々な物質を運ぶ役割をしています。)

ASTとALT ASTは、心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素です。ALTは肝臓に多く存在する酵素です。

γ-GTP 肝臓の解毒に関係する酵素で、肝臓・胆道の病気やお酒の飲みすぎで数値が上昇します。

腎臓系検査

クレアチニン(Cr) 筋肉でエネルギー源として使われる物質の老廃物で、ろ過され尿中に排泄されます。

尿酸(UA) 尿酸は、たんぱく質の一種である「プリン体」という物質が体内で分解されてできる老廃物です。腎機能が低下すると数値が上昇します。



脂質系検査

HDLコレステロール 善玉コレステロールと呼ばれるものです。

LDLコレステロール 悪玉コレステロールと呼ばれるものです。

**中性脂肪(TG)
(トリグリセリド)** 体内にある脂肪の一種で、体内のエネルギーのうち、使われなかったものは皮下脂肪として蓄えられます。その大部分は、中性脂肪です。

総コレステロール コレステロールは、細胞膜の基本的な構成成分であり、血管の強化・維持に重要な役割を果たしています。しかし多すぎると、動脈硬化症など生活習慣病の原因になります。

糖代謝系検査

血糖値(FPG) 糖とは血液中のブドウ糖のことで、エネルギー源として全身で利用されます。

HbA1c HbA1c (ヘモグロビン・エーワン・シー) は、過去1~2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映するため、糖尿病のコントロールの状態がわかります。

血球系検査

赤血球数(RBC) 赤血球は骨髄でつくられ、体の細胞に酸素を渡し、二酸化炭素を受け取って肺まで運んでいます。

**血色素(Hb)
(ヘモグロビン)** 血色素とは赤血球に含まれるヘムたんぱく質で、酸素の運搬役を果たします。

白血球数(WBC) 白血球は細菌などから体を守る働きをしています。

血小板数(PLT) 血小板は、出血したとき、その部分に粘着して出血を止める役割を果たしています。

感染症系検査

CRP 炎症や組織の破壊が起こるとすぐに増えるたんぱく質の1つです。回復とともに減少するので、炎症症状の指標となります。

臨床検査科 **| 室** ~臨床検査(血液・尿など)の疑問にお答えします~



当院で受けられた検査(血液・尿など)に限りませんが、説明・相談・情報提供を行っております。詳しい説明をお聞きになりたい方は臨床検査科受付にお越しください。

申込方法

場 所：2階 臨床検査科 受付
受付時間：10:00~15:00 (平日のみ)
(1人当たり15分程度)
費 用：無 料

MATSUSHITA REPORT

7月

がん相談支援室

(がん相談支援センター)

“一人ひとりの思いを大切に”



- ・病気の進行状況
- ・治療方法の選択
- ・抗がん剤の副作用
- ・精神的な不安
- ・仕事の悩み
- ・経済的な悩み
- ・介護の悩み

2018年7月から“がん相談専用の窓口”が開設しました

今般、3人に1人ががんで亡くなる日本において、患者さまやそのご家族は、情報が多い世の中であっても悩みは尽きないと思います。

現在は、医療者に任せっきりではなく、患者さま自身が医療者と一緒にごん治療やこれからのライフスタイルを考え決定していくことが新しい医療のあり方になります。

当院はがんに関する専門スタッフがチームとなって取り組んでいます。



医師

診療
担当医
(放射線治療医
腫瘍内科医)



認定看護師(7名)

がんに関する様々な
不安・悩みなどの
相談等



薬剤師

抗がん剤等の
薬物療法



管理栄養士

味覚異常・
食欲不振による
低栄養等



リハビリ技師

がんに伴う
後遺症、副作用等の
リハビリ



社会福祉士

福祉制度の利用・
生活の困りごと等

がん相談支援室 (がん相談支援センター)

ご連絡先: 06-6992-1231 (代表) 受付時間: 月～金曜日 9:00～16:00

news

マスク自動販売機の設置場所

マスク自動販売機の設置場所



正面玄関



時間外出入口



ドック健診センター

(1箱2枚入り100円)



【インフルエンザ流行期：面会時のお願い】

病院には免疫力の低下した患者さまが入院しています。インフルエンザを拡大させないためにご協力願います。

①面会時には必ずマスクを着用し、病室前で手指消毒を行ってください。

②マスクは各自でご用意ください。

お忘れの際は、**マスクの自動販売機 (正面玄関・時間外出入口・ドック健診センター)** または売店でお買い求めください。

発行

お問合せ・ご意見等ございましたら、下記までご連絡ください。
松下記念病院 広報委員会 〒570-8540 大阪府守口市外島町5番55号
Tel.06-6992-1231 (代表) Fax.06-6992-5808
<http://phio.panasonic.co.jp/kinen/>



HPにアクセス！



日本医療機能評価機構認定
(機能種別版評価項目3rdG:Ver.1.1)



14650004(05)
プライバシーマーク
取得